改正後	現行
奈良県胃がん検診(胃内視鏡検診)実施要領	奈良県胃がん検診(胃内視鏡検診)実施要領
(略)	(略)
10. 検診方法	10. 検診方法
(略)	(略)
(7)報告 市町村は検診結果を、胃がん検診(胃内視鏡検診)受付名簿(兼)結果名簿(様式4)、また、精検対象者にあっては、胃がん検診(胃内視鏡検診)要精検者名簿(様式12)の結果に基づいて、市町村がん検診結果報告書総括表様式を作成して、毎年6月末日までに速報値を、12月末までに確定値を管轄保健所に報告するものとする(中核市は県疾病対策課に報告)。なお、要精検と判断されるのは、「生検あり」と「生検なし」のうち「再検査必要」である。県保健所は、管内市町村の市町村がん検診結果報告書総括表様式のデータをとりまとめ、毎年7月末までに連報値を、1月末までに確定値を県疾病対策課に提出するものとする。	(7)報告 市町村は検診結果を、胃がん検診(胃内視鏡検診)受付名簿(兼)結果名簿(様式4)、また、精検対象者にあっては、胃がん検診(胃内視鏡検診)要精検者名簿(様式12)の結果に基づいて、市町村がん検診結果報告書総括表様式を作成して、毎年6月末日までに速報値を、12月末までに確定値を管轄保健所に報告するものとする(中核市は県疾病対策課に報告)。なお、要精検と判断されるのは、「生検あり」と「精密検査の必要性あり」である。県保健所は、管内市町村の市町村がん検診結果報告書総括表様式のデータをとりまとめ、毎年7月末までに速報値を、1月末までに確定値を県疾病対策課に提出するものとする。
(略)	(略)
(附則) この改正後の要領は、令和4年4月1日より施行する。 (附則) この改正後の要領は、令和6年4月1日より施行する。	(附則) この改正後の要領は、令和4年4月1日より施行する。

様式6

様式6 様式6-1検診機 様式6-2市町村

胃がん検診(内視鏡検診)検診票(兼)結果票

一次読影 所見の部位 (悪性疾患の疑いがある病変をすべてご記入下さい。) 生検 図解 所見の種類 □所見なし □食道 (上部、中部、下部) □食道胃接合部 □穹窿部 □噴門部 □体上部 □ 大弯 □平坦 □白苔 (有・無) □体中部 □体下部 □胃角部 □ 前壁 □発赤 □褪色 □前庭部 □幽門部 □球部 □ 後壁 口出血 □集中 (有・無) □下行脚 □その他() □変形 □その他(ピロリ菌検査 (0 未実施 1 実施) 診断方法および結果 : 1. (陰性・陽性) 2. (陰性 · 陽性) 胃がんリスク診断 1 ビロリ菌未感染胃粘膜 2 ビロリ菌現感染または既感染胃粘膜 (A.現感染 B.既感染 C. 現感染、既感染かは不明) 1.2(A.B.C.)のいずれかを必ず記入 1 異常なし 2 萎縮性胃炎 3 胃潰瘍 (A、H、S) 4 十二指腸潰瘍 (A、H、S) 5 鳥肌胃炎 6 胃ポリープ(胃底腺、過形成性) 7 逆流性食道炎 8 粘膜下腫瘍 (部位) 9 術後胃 10 胃腺腫 11 胃がん (分類 12 食道がん 13 その他(1 胃がんなし 2 胃がんなし・経過観察または治療が必要 5 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む) 3 胃がん疑い 4 胃がん 判定区分 方 1 経口 式 2 経鼻 コメント 胃がん検診中/後の偶発症の有無 1) なし 2) あり ※2)ありと回答の場合は別紙 <u>偶発症報告書</u>に記載し提出して下さい。 **給杏医療機関お上び給杏医**

二次競影

					ı		1	End Ave
	(悪性疾患の疑いがある場合	にご記入ください。)			追力	旧病変の種類		図解
□追加病変な	: L							
□食道 (上部、	中部、下部) □食道	質接合部			□隆起	□陥凹		
□穹窿部	□噴門部 □体』	:部		小弯	□平坦	□白苔		
□体中部	□体下部 □胃角	部		大弯	□発赤	□褪色		
□前庭部	□幽門部 □球部	5		前壁	□出血	□集中		
□下行脚	□その他()		後壁	□変形			
					□その他	()		
胃がんリスク 診断	1 ピロリ菌未感染胃粘膜	2 ピロリ菌現感染ま	たは既居	以 染胃粘膜	(A.現感染 I	B.既感染 C. 現感染、	既感染かは不明) 1	. 2(A.B.C.) のいずれかを必ず記入
	1 異常なし		2 装	縮性胃炎			3 胃潰瘍	(A、H、S)
内視	4 十二指腸潰瘍 (A	, H, S)	5 鳥	肌胃炎			6 胃ボリ	ープ(胃底腺、 過形成性)
鏡	7 逆流性食道炎		8 料	膜下腫瘍	(部位)	9 術後胃	I
診断	10 胃腺腫		11	胃がん(分	類)	12 食道:	がん
1201	13 その他()						
	検診時の生検の有無	1 あり	2 な	L			コメント	
判	生検 実施ありの場合	1 妥当	2 再	負査が必要	3 不	要		
定	生検 実施なしの場合	1 再検査必	要	2 再検査	下要			
	0 判定困難 1 胃が	んなし 2 胃がんな	し・経過	観察または治	台寮が必要	3 胃がん疑い	4 胃がん	5 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む)
	二次読影医	二次読影	Ħ.	年	月 日	サイン		

[※]一次遊影の所見と異なる場合は、コメント欄に内容を記載してください。
※「0 判定困難」と判定した場合は、画像評価委員会に画像を提出してください。

様式6

様式6 (2枚複写) 様式6-1検診機 様式6-2市町村

胃がん検診(内視鏡検診)検診票(兼)結果票

一次読影

所見の部	8位(悪性疾患の	疑いがある病変を	すべてご記入	下さい	·.)	7F E	見の種類	病変	生検	図解
□所見なし						1019	C = 2 13E 754	0	(有・無)	
□食道 (上部、	中部、下部)	□食道胃接台	略名		小弯	□隆起	□陥凹	Ψ.	(有・無)	
□穹窿部	□噴門部	□体上部			大弯	□平坦	□白苔	(2)	(有・無)	
□体中部	□体下部	□胃角部			前壁	□発赤	□褪色	(4)	(月・無)	
□前庭部	□幽門部	□球部			後壁	□出血	□集中	(3)	(有・無)	
□下行脚	□その他()			□変形		0	(月・無)	
						□その他()	4	(有•無)	
ピロリ	苗検査	(0 未実施 1	実施)	20	断方法および	『 結果 : 1.	(陰性・胃	胜)	2.	(陰性・ 陽性)
胃がんり	スク診断	1 ビロリ菌未感染	胃粘膜 2 ビロ	リ菌ヲ	見感染または既	感染胃粘膜(A.	現感染 B.既感染 C.	現感染	、既感染かは	不明) 1.2(A.B.C.)のいずれかを必ず記入
	1 異常なし			2 3	萎縮性胃炎				3 胃潰瘍	(A, H, S)
内視	4 十二指腸	潰瘍(A、 H、	S)	5 ,	鳥肌胃炎				6 胃ボリー	ープ(胃底腺、 過形成性)
鏡	7 逆流性食	道炎		8 #	4膜下腫瘍	(部位)		9 術後胃	
診断	10 胃腺腫			11	胃がん (分)類)		12 食道/	35A
	13その他()							
判定区分	1 胃がんな し	2 胃がんなし	経過観察	またに	は治療が必要	更	3 胃がん疑い	4 胃	がん	5 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む
コメント	!									方 1 経口 式 2 経鼻
胃がん検診中	/後の偶発症	の有無 1)	なし	2)	あり	※2)あり と	と回答の場合は別組	氏 偶系	经定報告書	
HW TO KEN I										

[※]複数の所見がある場合は、所見の部位および所見の種類欄の □に病変番号(①、②、③など)を記載してください。

二次読影

追加病変の部位	(悪性疾患の疑いがある	場合にご記入くだ	5v.)		10 to	病変の種類		図解
□追加病変	なし				坦加	州支 の 怪現		
□食道 (上部	、中部、下部) 口食	道胃接合部			□隆起	□陥凹		
□穹窿部	□噴門部 □体	上部		小弯	□平坦	□白苔		
□体中部	□体下部 □胃	角部		大弯	□発赤	□褪色		
□前庭部	□幽門部 □球	部		前壁	□出血	□集中		
□下行脚	□その他()		後壁	□変形 □その他 ()		
胃がんリスク診断	1 ピロリ菌未感染胃粘1 異常なし	膜 2 ピロリ菌現界		感染胃粘膜	(A.現感染 F	B.既感染 C. 現感染、		1. 2(A.B.C.)のいずれかを必ず記入 (A. H. S)
内	4 十二指腸潰瘍	(A LI C)	_	加胃炎				- (A、 f1、 5) - プ(胃底腺、 過形成性)
視	- I 1H /H9 (3R /H9	(11, 11, 5)			(dest Edu	`	9 術後胃	
鏡	7 逆流性食道炎		8 料	膜下腫瘍	(部位	,	9 俯後胃	
鏡 診 断	10 胃腺腫)		がん (分割	Chin I'm)	9 所依日	
鏡診	10 胃腺腫 13その他(がんなし 2 胃が	11胃		iii	3 胃がん疑い		
鏡 診 断	10 胃腺腫 13その他(0 判定困難 1 胃) がんなし 2 胃が]不要 口妥当	11胃	がん(分割	iii	3 胃がん疑い 精密検査の必要	12 食道: 4 胃がん	ў. .
鏡診	10 胃腺腫 13その他(0 判定困難 1 胃		11胃 んなし・経過	がん(分割	iii		12 食道: 4 胃がん	がん 5 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む)

[※]一次遊影の所見と異なる場合は、コメント欄に内容を記載してください。 (例) コメント:病変(Dは胃潰瘍薬癌ではなく胃がんを疑う。この場合判定

[※]複数の所見がある場合は、所見の部位および所見の種類欄の □に病変番号(①、②、③など)を記載してください。

[※]生検を実施した場合は、結果を精密検査依頼書兼結果通知書に記載してください。

[※]生権を事施した場合は、生権結果を二次遊影時に派付して下さい、ただし「判定区分」の4、胃がん5、胃がん以外の悪性病変(疑いよ会れ) がでた場合は、 連やかにご対応ください。

[※]生検を実施した場合は、結果を精密検査依頼書兼結果通知書に記載してください。

[※]生検を実施した場合は、生検結果を二次部形時に派付して下さい。ただし「判定区分」の4. 胃がん5. 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む) がでた場合は、連やかにご対応ください。

は 3. 胃がん疑いとなり、精密検査の必要性は あり となります。

^{※「}O 判定困難」と判定した場合は、「精密検査の必要性:1あり」とし、画像評価委員会に画像を提出してください。